

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、2017年3月13日、都庁より認定NPO法人として認定されています。これにより、当団体への皆さまからのご寄付は「特定寄附金」とみなされ、寄附金控除の対象となります。詳しくは団体ウェブサイトをご覧ください。

Together
WE CAN CHANGE
THE WORLD
FREE THE CHILDREN JAPAN

「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に

FREE THE
CHILDREN

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 安藤ビル3F

03-6321-8948 / 080-3218-5693

info@ftcj.org www.ftcj.org



ID:@ftcj



2024 Annual Report

2024年度 年次報告書 2024/1/1-12/31



FREE THE
CHILDREN

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に

03-6321-8948

| www.ftcj.org

| info@ftcj.org

団体の始まり — OUR STORY

1995年、カナダに住む12歳のクレイグは学校に行く前にマンガを読もうと新聞を手にしたところ、ある記事に目が留まりました。

「児童労働の廃絶を訴えていた 12歳のパキスタン少年、射殺」

パキスタン人のイクバル・マシーは、とても貧しい家庭で育ち4歳のとき両親から引き離され絨毯工場に売られてしまった。1日10時間以上の労働を強いられていたが、工場から脱出できNGOの助けで児童労働反対を訴える活動家として世界を回っていたが、母国に戻った時、何者かに殺害された。

クレイグは、同じ年のイクバルの死や、世界に奴隷のように働かされている子どもがいることにショックを受け、「同じ子どもの問題なら、自分たち子どもで取組もう」と声をあげ、「FREE THE CHILDREN」(FTC)を設立しました。

その後クレイグは実際に児童労働の現状を学ぶため中学1年生になると南アジア5カ国をまわる50日間の旅に出ました。

そこで、マザーテレサやノーベル平和賞を受賞したカイラシュ氏に出会いました。そして、クレイグの想像をはるかに超える過酷な環境で働くたくさんの子どものことを世界に伝えるため、カナダに帰国後、旅の体験記を本にまとめたりスピーチをして世界をまわるようになりました。

1997年、アメリカのNGOに所属していた中島早苗(現代表)がFTCとクレイグの活動を知り団体の理念に賛同し日本に紹介しようと、帰国後1999年に日本でフリー・ザ・チルドレン・ジャパンとして活動を開始。2004年に、法人格を取得しました。国内外の子どもたちへの自立支援事業とともに、国内でのエンパワーメントにも力を入れ、アクションを起こす子どもたちが増えるように、事務局ではスタディツアーやテイク・アクション・キャンプの開催、出前授業などを実施しています。現在、全国の子どもたちがメンバーとして国際協力やさまざまな社会課題解決に向け、それぞれの得意なことを生かしながらアクションを起こしています。

私たちの目指す社会 — OUR VISION

世界中のすべての人々が【誰一人取り残されることなく】社会に参加し、国籍・宗教・年齢・性別・障害の有無・文化に関係なく、違いや個性が尊重され、互いに勇気づける多様性のある社会。

私たちの使命 — OUR MISSION

日本からビジョンを達成するために、社会の一員であり、普段あまり声を聴かれない子どもに特に着目し、まずは子どもの権利を守り、子どもの可能性を引き出すことが大切だと考え、ふたつの「FREE」の実現を目指します。

- ・国内外の貧困や差別から子どもをFREE(自由)にする。
- ・「子どもには世界を変えられない」という考えから、子どもをFREE(自由)にする。



代表あいさつ

MESSAGE FROM THE CHAIRPERSON OF THE BOARD

2024年はフリー・ザ・チルドレン・ジャパン(FTCJ)創立25周年の節目の年でした。1995年に12歳のクレイグ少年によってカナダで設立されたFree The Childrenの「子どもは、助けられるだけの存在ではなく、自らが変化を起こす担い手である」という理念に出会い、この考えを日本に広めたい、同時に、世界の貧困や児童労働などの搾取から子どもを助け状況を改善したいという気持ちから1999年に日本で団体を立ち上げました。

25年の活動を振り返り、日本と世界の状況はどうなったのでしょうか。一言で言い表すことは難しいのですが、ある部分では、子どもを巡る状況は改善しました。世界の児童労働者数は25年前は2億4600万人でしたが、現時点では未だに多いものの1億6000万人に減少しました。FTCJが関わった国際協力地域では、大変喜ばしい変化が生まれていることが確認できました。それは、フィリピンやインドで、以前児童労働に従事したり、ストリートチルドレンだった少年や少女が、FTCJの現地パートナー団体によって救出され、支援を受け、中には大学に通うなどし、就職し安定した収入を得られる成人となった若者たちに会うことができたからです。

国内においても、非常に嬉しい変化がこの25年で生まれました。それは、日本政府が初めて子どもを権利の主体として捉え、子どもの権利を尊重する社会を創るための法律「こども基本法」が制定されたことです。これからは、子どもに関する事柄について子どもの声を聴くことが国や自治体の義務となり、そのための仕組みづくりが行われるようになりました。このように、諦めずに活動を続けてきたからこそ、国内外の子どもたちの状況を少しでも良いものへと変化を起こすことができました。



25年を通じて様々な方々とともに歩むことができ、ご協力くださった皆さまの存在がなければ25年の活動を続けることはできませんでした。改めまして、FTCJに関わってくださったすべての皆さまに心からお礼を申し上げます。

しかし、国際社会や日本社会には多くの問題が山積しています。25年前と比べて貧富の格差が広がっている地域が多く、貧困層の比率が25年ぶりに上昇していると国際NGOオックスファムは、経済格差に関する報告のなかで述べています。また、ロシア・ウクライナ戦争が3年近く行われていることに加え、イスラエルとパレスチナ自治区での戦争は1年以上続いており、世界15以上の国々で戦争が起きています。中東のガザでは、この1年間で4万人以上が殺されました。そして、命を脅かす存在は、戦争だけではなくありません。気候変動によって、毎年25万人以上が命を落としているといわれています。このような状況を少しでも改善しようと、2024年度は25周年を記念して様々な特別イベントを開催しました。

改めましてご協力くださった皆さま、本当にありがとうございました。課題解決には多くの時間がかかりますが、諦めずに活動することで変化を起こすことはできると25年を振り返りそう確信しています。

「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会の創造に向けて、どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

認定NPO法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

代表 中島 早苗



設立25周年記念 特別イベントを開催

2024年、FTCJは設立から25年の節目を迎えました。これまでの歩みを振り返り、そして未来への一歩を踏み出すために、私たちは3名の特別なゲストをお迎えし、対談イベントを実施しました。

第1弾は1月、当団体の活動の原点ともいえる、カナダの「フリー・ザ・チルドレン」創設者クレイグ・キールバーガー氏との対談。代表の中島とスタッフの長沼は年明け早々、カナダ・トロントを訪問し、これからのビジョンを共有する時間を持ちました。イベントはオンラインと対面のハイブリッド形式で行われ、全国から301名、渋谷会場には40名の方にご参加いただきました。

第2弾では、一般社団法人プロジェクト希望 代表理事、ソニーグループ株式会社シニアアドバイザーでもある平井一夫氏を迎え、子どもたちへの支援や、今の日本に必要な教育とは何かについて、熱い対話が交わされました。

そして第3弾は、フィリピンのNPO「プレダ基金」創設者のシェイ・カレン神父をお招きしました。プレダ基金は、私たちの海外支援事業の最も古くからのパートナーの1つ。団体創設以来、信頼と共感をもって歩んできた関係です。今回は、カレン神父と代表・中島による初の対談を中心に、オンラインで日本とフィリピンをつなぐ形で開催されました。

さらに、「私を変えたフィリピンスタディツアーの体験」と題して、かつて現地を訪れた元子どもメンバーからの発表も。プレダ基金での経験がどのように自身の価値観を変え、今の生き方に繋がっているのか、その真摯な言葉が多く参加者の心を動かしました。

活動を信じて支えてくださる皆さまのおかげで、このような意義ある時間を築くことができました。信念をもって行動する人々と出会い、共に「今」と「これから」を考える機会となりました。

担当スタッフの声：長沼

13年前、カナダのフリー・ザ・チルドレンでインターンをしていました。久しぶりにカナダのオフィスを訪れ、クレイグと会い、変わらず熱い想いで走り続ける姿にパワーをもらいました。

子どもの権利条約フォーラム 2024 IN 東京

助成：日本財団



子どもの権利条約フォーラムは、1989年の国連総会で採択された、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約の普及と、子どもの権利について関心を寄せる人々の意見交換、出会い、交流の場です。

今回は11月9日・10日に東京で開催され、延べ2,129人（大人1,413人、子ども716人）が来場し、ボランティア・実行委員を含めると、総勢2,316人の方々にご参加いただきました。

1日目はFTCJの子どもコアメンバーが約5か月かけて準備してきた子ども参加企画「とどけ、わたしたちのリアル！ひろがれ、わたしたちのアクション！」を実施。6人の子どもたちが登壇し、それぞれの経験や思いを語り合う2つのトークセッションを行いました。2日目は3つのグループの子どもたちが企画・運営するプログラムのサポートを行いました。

約5か月間にわたり、このフォーラムを通して大人や子どもになにを伝えたいか、どんな時間にしたいかを、子ども企画メンバーが考え、準備してきました。企画メンバーのみなさん、登壇者のみなさん、当日お手伝いいただいたみなさん、そして実行委員やボランティアのみなさん、ありがとうございました！

インターンの声：森垣穂香さん

今回の子どもメンバー企画に、私は伴走するファシリテーターの役割を行うインターンとして参加しました。高校時代から子どもの権利条約に関する活動を行ってきた私はこれまでは伴走をしてもらう側から、今回伴走するという形で1つの企画に関われたことはとても学びになりました。子どもたちの自由な発想や主体的な姿勢を尊重しつつ、必要な場面では背中を押したり、時には方向性を整理したりする役割を担いました。このバランスを取るの簡単ではありませんでしたが、子どもたちが意見を出し合い、一つひとつ形にしていく姿を間近で見ることで、伴走者としての役割の意義を強く感じました。





テイク・アクション・キャンプ

毎年開催している、小中高生のための問題発見・解決力&思考力を育てるテイク・アクション・キャンプ。今年は8月と12月に開催しました。

8月は、静岡県御殿場市で開催、全国各地から小学生～高校生が過去最大の50人集まりました。12月には東京都八王子市で小学生、中学生を対象としたキャンプを開催。参加者は19名となりました。

住んでる地域やバックグラウンドも様々な仲間が出会ったテイク・アクション・キャンプ。

キャンプを通して、みんなで多くのことを知り、感じ、考え、そしてアクションへの一歩を踏みだしました。この仲間たちがいることを忘れずに、それぞれの場所からアクションを起こしていくことを願っています。



参加者の声

◆キャンプに参加してたくさんのことを学び、成長できました。最初はガチガチに緊張していたのですが、プログラムが進むにつれ楽しく、夢中になっていました。プロジェクトを通して「知る」ということはとても大切だと改めて感じました。知らないと声を上げられないし、間違っていることが当たり前として過ぎてしまうと思いました。また、実際に貧困脱出ゲームで「知らない」側になり、もし自分が「知らない」ことが多い国の子どもになったらと想像するととても怖くなりました。なので、私は今後たくさんのことを勉強し、新たな知識をどんどん吸収したいと思いました。

◆社会課題に対して自分とは違う考えの人がいて面白かったし、ゲーム感覚で学んだり考えたりできてたのしかったです。ファシリが方たちいないと成り立たないくらいにこのキャンプでは中心にいたいと思う。ファシリの方たちのおかげでこのキャンプの雰囲気を感じることができたり相談もしやすかったです。私たちもすごく頼りにしていました。

自治体と連携し 研修や講演会を実施

2024年度は14の自治体にて研修や講座等を実施。次年度に向け相談・コーディネート提案を20の自治体と実施しました。

3月には新潟市主催 子どもの権利について考えてみよう新潟市こども条例—というイベントで紙芝居や教材を通じて参加者の子どもたちと保護者のかたと一緒に子どもの権利について考えました。11月14日(埼玉県民の日)には、埼玉県福祉部こども政策課が開催した「こどもたちと知事の意見交換会」のコーディネートとファシリテート(運営の補佐)をフリー・ザ・チルドレン・ジャパンが担当しました。その他にも全国各地からご依頼いただき、講師だけでなく子どもの意見聴取ファシリテーター養成講座の実施や子ども会議のコーディネートや教材開発を行いました。

FTCJでは、子どもを対象としたファシリテーター養成講座や、おとな・ユースに向けたファシリテーターを養成する講座も実施しています。

「子どもの声を聴く」ということを社会に根付かせ、実践していくためには、あらゆる場面が想定されると思います。現場に適した中身を盛り込み、学校などの教育機関や地方自治体をはじめとする様々な組織の方にとっても、非常に有効な情報が盛り込まれておりますので、子どもの権利についての講座や、子どもの権利をベースにした子どもの声を聴くファシリテーター養成講座にご関心がある皆さま、ぜひご連絡やお問合せください。対面、オンライン、ハイブリッド型など地域や参加者層、ご予算に合わせて実施を致します。

実績

- ・こども家庭庁主催：こども意見聴取ファシリテーター養成講座の講師を全4回全て務める。研修資料の更新も実施。
- ・埼玉県知事と子どもの交流イベントのコーディネート及び当日の運営・新潟市からの委託事業として、新潟市子ども条例の普及啓発のための未就学児及び小学校低学年児童を対象にした紙芝居教材の開発と、イベントの実施を実施。
- ・その他北海道～島根の12の自治体で、1時間半～3時間の講座、1日のファシリテータースキル研修を実施。



担当スタッフの声：出野

2023年のこども家庭庁との事業連携の実績が評価され、2024年は北海道から九州まで、たくさんの自治体からご相談をお受けしました。1つ1つ状況やニーズが違うため、打ち合わせやカスタマイズを重ねて講座や研修を創りあげ、私たちこそ学びが深まった一年でした。

ミンダナオ島の先住民族の 小学校にトイレができました

#フィリピン

支援地域の1つである、フィリピンの南部ミンダナオ島の山間部に住む先住民族の村では、子どもたちが通う小学校のトイレが壊れて使えない状況であることがわかりました。トイレがないことで授業の出席率や進行にも影響がでていることから現地の先生たちの要望もあり、この学校に新しいトイレの建設を行なうことにしました。

2023年後半に資金を集め、2024年1月には工事を開始する予定でしたが、年末から激しい洪水などが続き工事が遅れ、3月から工事を開始、2024年5月に無事2つのトイレが完成しました。



完成した生徒用の新トイレ

トイレ完成まで



コミュニティの人々を集め、本プロジェクトの詳細とプランを話し合い、村人から賛同を得て、どんなトイレを設置するかを決定し工事開始となりました。工事のために2名の熟練の大工と石工、1人の助手を雇い、前半の穴掘りなどは、この学校に通う子どもたちの保護者をはじめとした地域住民がボランティアで作業を手伝い、5月に完成させることができました。

完成後には学校に通う子どもたちを集め、新しいトイレの使い方と、衛生の大切さを伝えました。無事に念願のトイレが完成し、新学期から生徒たちは安心して学校に通う事ができるようになります。

今後は、老朽化が進んでいる学校行事や村の会議などで使用しているホール、そして幼稚園の建物の補修などを進めていく予定です。また、先生たちのトレーニングを実施し、子どもたちがより質の高い教育を受けられるよう支援を行ないます。

トイレ建設のためにご寄付・ご支援くださった皆さまに心より感謝申し上げます。

貧困家庭にヤギを届ける 事業を実施しました

助成：
ウェスレー財団
Wesley
Legacy
Fund

#インド

支援地域の1つである、インドの西ベンガル州の村で現地パートナーNGOのCCD (Centre for Communication and Development) とともに、貧困家庭に、母親など女性にヤギを無償で提供し、家畜として世話ができるオーナーとなれるよう研修を提供し、ヤギのミルクで家族が栄養をとれたり、ヤギをブリーディング(繁殖されること)して生まれた子ヤギをマーケットで販売して収入を得られるようにするなど収入向上支援を行うことができました。



ヤギの提供を通じた活動について現地を訪問しモニタリングを行い、支援を受けた女性たちの声を聴きました。

「ヤギを今回初めて無償で受け取ることができ、とても嬉しい。まだ、ブリーディングができていないので、大きな収入を得てはいないけれど、ヤギのミルクで家族の栄養を補うことができます。」

「今まで、自分には収入がなく夫の収入に頼るしかなかった。ヤギの提供を受けたことで、子ヤギが生まれれば、1匹5000ルピーほど(1万円弱)でマーケットで売ることができるので、大きな収入となります。家族のために家計を助けることができる自分がとても誇らしく感じられます。とても自分の尊厳を感じられます。」

「今まで畑仕事をする事で何とか収入を得るしかなかったが、最近の気候変動などで、収穫が安定しないと収入も不安定になり、困っていました。でも、ヤギの無償提供を受け、ヤギが生まれれば収入につながるので、精神的にとっても助けられ、これから子どもたちを育てていくこともでき、安心しています。」
「ヤギの無償提供のために寄付をくださった日本のみなさん、本当にありがとうございます。生活しやすくなるとてもありがたい支援です。」

収入向上支援のためにご寄付・ご支援くださった皆さま、心より感謝申し上げます。

2024アニュアルレポート 目次

3 代表あいさつ

4 2024年の活動
ピックアップ

10 子ども主体事業
子ども活動応援事業
外部ネットワーク事業

12 アドボカシー事業

14 海外・国内自立支援事業

19 会計報告

FTCJ子どもアンバサダー

FTCJの子どもメンバーの代表である子どもアンバサダーは、全国の子どもメンバーを繋ぐミートアップイベントの開催、自らのアクションを発信する活動のほか、団体運営について意見がある場合は、事務局に提言を行う役割を担っています。

子どもアンバサダー13期(任期:2023年9月~2024年8月)に31名、14期(2024年9月~)に13名が活動中です。積極的に自ら社会問題解決のためのアクションを起こし、発信しています。現メンバーで2025年8月まで活動予定です。



子ども活動家育成／子ども活動応援事業

- テイク・アクション・キャンプ** 助成：大東建託グループみらい基金
パブリックリソース財団『感動体験支援基金』
小学5年生~高校生を対象にした合宿型リーダーシップ・トレーニングプログラム。子どもたち自身が「子どもには世界は変えられない」という考えから脱し、子どもが社会問題や国際協力活動に取り組むための自信とスキルを習得できるプログラムです。今年度は夏と冬と2回開催。夏は静岡県で開催し50名参加。冬は東京都で開催し19名の参加となりました。経済的な課題を抱える家庭の子どもへのスカラシップ制度(無料招待)を実施しました。
- 次世代リーダー教育インターンシッププログラム**
相手に寄り添い、個性や意見を引き出すFTCJ独自のファシリテーションスキルを学ぶ、主に大学生を対象としたプログラムです。子どもたちが安心できる環境を作り、意見を引き出すファシリテーターの育成を行いました。
- 国立成育医療研究センターとの協働** 助成：CBGM子ども財団
(ティーンボイスプロジェクト) デロイト トーマツ ウェルビーイング財団
コロナやその対策を子ども自身が振り返り調査し国などに提言をし、子どもの声を社会に届けるためコンソーシアム(共同事業体)を国立成育医療研究センターと一般社団法人Everybeingと3団体で設置し活動に取り組みました。4人のファシリテーターを育成し、全国から16人の子どもを探究者として選考し、春休みに政策提言に取り組むための合宿を実施。また、イギリスの若者と意見交換をしながら子ども探究者による提言づくりを支援し、8月にこども家庭庁を訪問し提言発表や意見交換を実施しました。他、11月に一般に向けた子どもによる提言発表やおとなからの子どものメンタルヘルスに関する報告などを行いました。

メンバー活動サポート／子ども活動応援事業

- 子ども活動応援** 助成：日本財団(子どもの権利条約フォーラム全体会子ども企画)
メンバー登録をした子どもや若者へイベントや活動の情報を定期的流したり、電話やメールでの相談や質問に対応し子どもメンバーが主体的に活動できるようおしゃべりナイト(オンライン)、ボランティアデーの実施を行いました。11月に開催された子どもの権利条約フォーラム2024全体会の子ども企画の実施支援やプログラムを企画運営した。当日は800人以上の参加がありました。
- We Are the Movementの実施** 助成：大東建託グループみらい基金
大東建託グループみらい基金様の支援により、子ども・ユースメンバーからソーシャルアクションプロジェクト企画を募り、選考し、選ばれたプロジェクトの実施のサポートを行いました。6件を支援プロジェクトとして採用しました。また、採用期間外にて比較的小規模かつ短期間で実施可能なプロジェクト支援を行う「ミニアクション枠」にて採用、1件を準備相談対応しました。

- スタディーツアー**
フィリピンの支援先を訪問するツアー春と夏に実施。定員を超えた応募があり、中学生~社会人まで春は18名、夏は17名の参加となりました。日本の子どもや若者が、フィリピンのマニラやオロンガポで国際協力の現場を訪問し、支援先の子どもと交流したり、国際問題について考えたり、個人でできること、NGOとしてできることを学び考えました。



他団体との活動／外部ネットワーク事業

- 広げよう！子どもの権利条約キャンペーン**
国連子どもの権利条約制定30年の節目の2019年に子どもの権利保障を目指しNGOでネットワークを設立。FTCJは実行委員として関与しています。子どもメンバー等とともに「子ども基本法」が社会に根差し、子どもの権利が実現するための活動や子どもの声を聴くイベント開催、その重要性を考える啓発活動に取り組みました。11月には子どもの権利条約フォーラムを共催し約2000人もの参加者を対象に、子どもの権利について考え学ぶ機会を創出した。FTCJ子どもメンバーが企画するプログラムを運営支援しました。
- JNNE/SDG4教育キャンペーン**
開発途上国の子どもたちへの教育支援を行っているNGOによるネットワークです。「SDG4教育キャンペーン2024」の広報協力、JNNE実行委員団体としてネットワークの運営に携わった。主に、開発途上国の教育支援の拡充のための啓発と政策提言活動を実施。また、国内の教育問題について啓発を行いました。
- 児童労働ネットワーク**
児童労働問題に取り組むNGOや労働組合、個人により構成され、児童労働の廃絶に向けたキャンペーンなどを実施しています。FTCJは運営委員団体として参加しています。「ストップ！児童労働 キャンペーン2024」を主催し、オンラインイベント開催、レッドカードアクション、TWITTERフレームを活用した児童労働・SDG8.7に関する周知を通じて児童労働問題の意識啓発を行いました。
- フェアトレードタウン世田谷推進委員会**
世田谷をフェアトレードタウンとして認定されるよう世田谷区民及び世田谷区にある団体など組織で構成しネットワークとして活動しています。世田谷区内でフェアトレード商品の紹介や販売、イベントの開催などを行いました。
- にいがたNGO ネットワーク**
新潟県の国際協力や国際交流の活性化のためのNGOを中心としたネットワークに、FTCJとして参加し。ウェルビーイングや子どもの権利を保障するための国際協力の在り方を考えるセミナーやイベントの実施を行いました。

出前授業・講演会・ワークショップ及びイベント実施活動

助成：大東建託グループみらい基金、日本財団、連合・愛のキャンパ、東京都福祉保健財団

年間を通じて、社会問題や権利を奪われた子どもの現状、課題解決について出前授業を実施しています。アクティブラーニング形式を大切に、複数のワークショップを組み合わせながら、各学校毎に完全カスタマイズでプログラムを作成しています。

2024年度は104回実施(オンライン形式・オンデマンド動画閲覧者数含む、参加者は学校で6,635人、自治体・行政(こども家庭庁含む)645人、団体・企業・イベントで登壇1,306人、合計で8,586人にご参加いただきました。



学校での出前授業



埼玉県知事と子どもの交流イベントの交流のコーディネートと当日ファシリテート



イベント登壇



子どもの意見を聴くファシリテーション講座

事務所訪問対応

訪問依頼などは基本的にオンラインで対応し、希望者のみオフィスへ訪問いただく形で実施をしました。団体説明いただいた質問への回答などを行いました。

教材開発

助成：日本財団、東京都福祉保健財団、大東建託グループみらい基金
 ウェルビーイングについて小学生が理解できるような学校向けの授業プログラムと動画を含む教材開発に取り組みました。また、子どもの権利が学べるワークショップ教材や、自治体向けのファシリテーター養成研修向けのFTCJオリジナルテキストを作成。その他、オリジナル教材(チェンジメーカー・教育プログラム)の更新作業を実施しました。



啓発活動

プログラムへの理解を深め、効果的に教材を活用いただくために教職員向けに教材体験会の実施、メールマガジン発刊、相談の実施を行いました。

キャンペーンキット

助成：大東建託グループみらい基金、日本財団

こども基本法について解説するためのページなどを追記するなど、Speak Upアクションキットの改定・公開を行いました。無料でダウンロードいただけます。



自治体との連携

14の自治体にて研修や講座等を実施し、次年度に向け相談・打ち合わせを20の自治体と実施しました。こども家庭庁主催のこども意見聴取ファシリテーター養成講座の講師を全4回全て務め、研修資料の更新も実施、その他には、埼玉県知事と子どもの交流イベントのコーディネート及び当日の運営、新潟市からの委託を受け、新潟市子ども条例の普及啓発のための未就学児及び小学校低学年児童を対象にした紙芝居教材の開発と、イベントを実施しました。そのほか北海道～島根の12の自治体で、1時間半～3時間の講座、1日のファシリテータースキル研修を実施しました。

出版

子どもの未来社から「こども基本法こどもガイドブック」を8月に出版しました。10月には重版となりました。

物販/イベント

フェアトレード商品や出版物の紹介、それに関する資料作成と仕入れ、販売などを行いました。自主イベントとして、ハロウィンフードドライブを千歳鳥山駅前やJR東日本の5駅で実施したりと、子どもたちやボランティアスタッフと共に企画・運営を行いました。

ニュースレター・アニュアルレポート/メールマガジン

・2023年度アニュアルレポート発行、25周年記念ブックレット発行
 ・メールマガジン:月に2回発行、臨時メール発送年6回

ホームページ更新・作成

助成：大東建託グループみらい基金

大東建託グループみらい基金様からの支援子ども向けウェブページの構築作業を行いました。WEBサイトリニューアルに向けたページ作成を行いました。
 webサイト随時更新:1日平均800view程度7ヶ所あり。
 ニュース・レポート:1日平均400view程度7ヶ所あり

自立支援事業

貧困などが原因で権利を奪われ困っている開発途上国の子ども(特に支援地域のフィリピン、インド、ケニアなど)や国内の子どもの権利が守られ心身ともに健康的に過ごすことができ、自立できるよう支援をしています。また、災害や紛争などによって被害を受けた地域への緊急復興支援事業を実施しています。

フィリピン支援事業／自立支援事業(海外)

先住民族の子どもへの教育支援

寄付：ペンパルプログラム・サポーター、他

ミンダナオ島先住民族の村に暮らす子どもたちの教育環境整備に向け、「小学校のトイレ設置と修繕」、「幼稚園の校舎及び学校図書室改修」、「子どもの権利を基本とした生徒への接し方教員研修」を実施しました。



プレダ基金を通じた子ども・コミュニティ自立支援

寄付：サンタパレード東京、他

フィリピン・ルソン島サンバレス州オロンガポに位置する現地パートナーNGOプレダ基金を通して、性的虐待を受けた少女や、路上や刑務所から救出された少年への教育支援や、貧困下にいるアエタ民族コミュニティへの自立支援事業を実施しました。



緊急支援

2023年12月～2024年2月にかけて、フィリピン南部ミンダナオ島での豪雨、洪水、土砂崩れの被災地域への緊急支援として、被災地域の農家を対象に食料の配布を実施。64世帯に対して緊急的に支援を行いました。



インド支援事業／自立支援事業(海外)

西ベンガル州 CCD支援事業

助成：ウェスレー財団

現地パートナー団体CCDを通じて、インド・西ベンガル州の貧困家庭で暮らす子どもが学校に通え、栄養ある食事で健康に暮らせるよう、子育て中の母親などにヤギの無償提供と研修を実施し、収入を得られるよう支援をしました。また、子どもの権利が保障されるための子どもに向けたワークショップの実施をしました。



マハラシュトラ州 貧困地域子ども教育支援

マハラシュトラ州の州都ムンバイ郊外の貧困地域の子どもの教育支援を現地NGOを通じて、貧困家庭の子どもが質の良い教育を得られるようにする支援です。日本企業が提供する教材を使ったワークショップができるようコーディネートするなどしました。



ケニア支援事業・コンゴ支援準備／自立支援事業(海外)

ケニア先住民族支援事業

寄付：サンタパレード東京、他

ナロック群南ナロック県のマサイ民族やキクユ民族のコミュニティでは、女子教育への理解が低い地域があるため、啓発を行うとともに、貧困家庭の女子が質の良い中等教育を受けられるよう、奨学金支援を行い、女子への中等教育支援を行いました。



コンゴ民主共和国支援準備

寄付：Bleaf株式会社、他

コンゴ民主共和国出身の元子ども兵士で、世界的な活動家ミシェル・チクワニネさんの呼びかけにより、紛争のため著しい貧困に陥っているキブ州の農村コミュニティにて、農業従事者への農業技術のトレーニングや苗木や農具の提供を通じた生計維持支援をパイロット事業として行いました。本格的には2025年度から健康及び収入向上のための支援事業を実施予定です。



国内の子ども支援事業／自立支援事業(国内)

経済的困難を抱える家庭の子ども支援(スカラシップ制度)

助成：パブリックリソース財団『感動体験支援基金』、大東建託グループみらい基金

経済的な理由などでキャンプなどの参加型プログラムへの参加をあきらめざるを得ない小学5年生～18歳を対象に参加費無料とし、交通費補助も行いました。

スカラシップ枠は、夏休み4日間は国立中央青少年交流の家(静岡県御殿場市)にて10名、冬休みは1泊2日で高尾の森わくわくビレッジ(東京都)にて対面にて6名を対象に実施しました。



経済的困難を抱える家庭の子ども支援(入学・入園・進級応援金)

寄付：株式会社東京デリカ SALON de RUBAN

ひとり親家庭や新型コロナウイルスの影響を受けた世帯、その他様々な理由で家計がピンチな状況にある世帯で、2024年2月に入学・進級する3人以上の子育て家庭で、新学期の準備金の支援が必要な世帯を対象に支援金を贈る「応援金サポート」を実施。受付開始後すぐに500名以上の方から応募があり80世帯の方に応援金の贈呈を行いました。

Change Makers Fes2024

Change Makers Fes (チェンジメーカー・フェス) は、人や地球のことを考え、ボランティア等に取り組んだ25歳以下の子ども・若者を無料で招待し、彼らのアクションを祝い、これからの活動にエールを送るライブイベントです。2回目の会場開催となるChange Makers Fes 2024をZepp Haneda (TOKYO)にて実施。世界中で続く戦争に、大きすぎる問題で何ができるのかと心を痛めている子ども若者が多くいる状況に対し、Take Action for Peace ~平和のための私のアクション~をテーマにプログラムを構成。平和に向けたアクションについて、おとなやU25のチェンジメーカーがスピーチを通じて伝えるとともに、パフォーマンスで勇気づけ、最後にChange Makers Fes 2024のメインアーティストに就任したAIさんと一緒に、平和を願って作られたLasting Peace Songを大合唱しました。合唱企画に向けて、事前の参加者交流会も経て当日を迎えたことで、より一層、一体感/仲間を感じられるイベントとなりました。当日撮影したイベントの様子を、イベント開催後にオンラインで配信し、より多くの人に届けられるように編集し、2025年2月に公開しました。

助成：大東建託グループみらい基金、子ども夢基金
 企業協賛：C-United株式会社 (珈琲館/カフェ・ド・クリエ/カフェ・ベローチェ)、株式会社パワープロジェクト
 協力：株式会社フロンティアインターナショナル、テアトルエンターテインメント
 Lasting Peace Project、TOMOSUBA TOKYO、広げよう！子どもの権利条約キャンペーン
 おおたっ子条例を考える会、一般社団法人ガールスカウト東京都連盟 歌唱指導：磯野万里衣、蔵本順
 後援：大田区教育委員会、独立行政法人国際協力機構 (JICA)、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター (JANIC)
 東京ボランティア・市民活動センター (TVAC)、特定非営利活動法人日本NPOセンター (JNPOC)

管理部

その他翻訳・研修受講・個人情報管理・ファンドレイジング・広報・ブランディング・問い合わせ対応・会計・理事会運営・管理・事務所運営管理等をこの法人の目的を達するために日々行っています。

SNSで情報発信中



様々なイベントメンバーの、メンバーの活動報告、アクションキャンペーンや事業報告などを団体ブログだけでなく各種SNSで週2,3回発信しています。フォローや友達追加をお願いします！



Pick up メディア掲載



英語の教科書 ONE WORLD English Courseに当団体の活動が掲載されました。



TBS「THE TIME,」で「チェンジメーカー・フェス2024」の様子が放送されました。

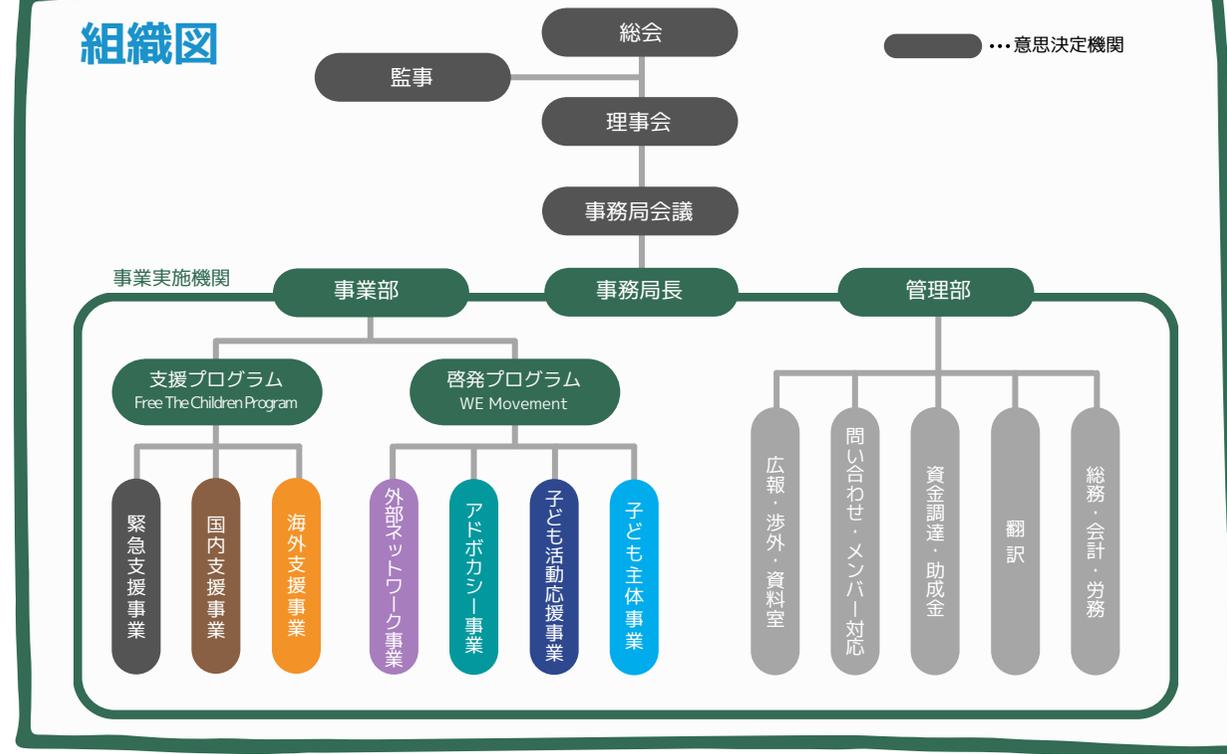


J-WAVE [JAMTHEPLANET] 番組内コーナー「LOHAS TALK」代表理事の中島が出演し、団体紹介や25周年記念イベントの告知を行いました。



SDGs mediaで当団体代表の中島へのインタビューと団体紹介に関する動画を公開していただきました。

組織図



組織概要

特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
 設立：1999年1月1日 / NPO法人取得：2004年9月21日 東京都より「認定 NPO 法人」認証：2017年3月13日
 事務所所在地：〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-6-5 3F
 正会員数：42名(うち子ども13名)(2025年4月1日現在)
 代表理事：中島早苗 / 副代表理事：原元 望
 理事：伴野 保志、出野 恵子、藤井 裕子、志賀 アリカ、林 大介、中島 慎治、松下 耕二
 監事：倉下 由香、宮島 珠

事務局体制・役割

長沼ななみ：WE MOVEMENT 事業部長
 板倉香子：会計・総務
 広瀬太智：WE MOVEMENT 事業部 子ども活動応援課ゼネラルマネージャー
 菅原萌子：WE MOVEMENT 事業部 子ども活動応援課マネージャー
 木村千夏：WE MOVEMENT 事業部 子ども活動応援課マネージャー 広報担当
 鈴木洋一：子ども活動応援事業、外部ネットワーク
 鈴木悠仁子：アドボカシー・国際協力事業
 田中理帆：渉外、ブランディング
 佐藤美紗子：ブランディング
 竹内拓海：チェンジ・メーカーフェス
 石谷小蒔：スピーカー・ファシリテーター
 【理事兼任】
 中島早苗：代表理事 海外自立支援事業・全事業
 原元 望：副代表理事 全事業
 出野恵子：事務局長 アドボカシー事業
 伴野保志：個人情報管理システム構築
 藤井裕子：関西での活動
 松下耕二：チェンジメーカー・フェス

子どもアンバサダー

13期(2023年9月~2024年8月):31名
 小6-1名/中1-6名/中2-4名/中3-4名/高1-5名/高2-11名
 14期(2024年9月~2025年8月):13名
 中2-3名/高1-4名/高2-3名/高3-3名

インターン・ボランティア

インターン
 チェンジメーカー・フェス：石川美桜、萩原あかり、松浦弓奈
 ティーンボイスプロジェクト：坂本奈々美、日置実里、栗田優希、木村真彩
 子ども家庭庁、子どもの権利条約フォーラム：森垣穂香
 テイク・アクション・キャンプ 担当：鈴木彩貴
 ボランティア
 S.S:事務局運営・広報補佐・ファンドレイジング・翻訳・海外支援事業・教材開発・ウェルビーイング事業ほか
 本川優希：スピーカー・ファシリテーター

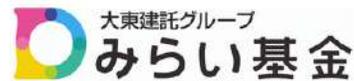
アドバイザーご紹介 (敬称略)

堀内光子：労働問題や女性の権利の分野での研究・専門家。
 河合将生：NPO・NGOの組織基盤強化やマネジメントのコンサルタントなどを行うOFFICE MUSUBIME代表
 平尾潔：日本弁護士連合会所属、世田谷区せたがやホッと子どもサポート委員
 長田和弘：税理士、中小企業診断士、準認定ファンドレイザー

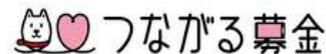
私たちの活動を支えてくださっている法人のみなさま

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、多くの企業・学校・団体のみなさまよりご支援・ご協力をいただき活動しています。

皆様のあたたかいご支援心より感謝申し上げます。



Bleaf Co., Ltd



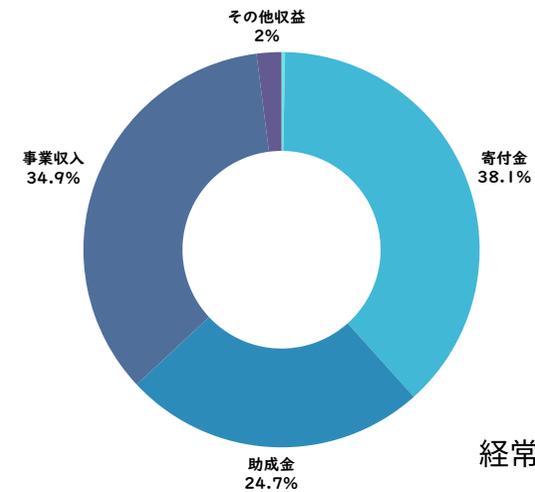
寄付・協賛協力（順不同）

大東建託グループみらい基金、株式会社東京デリカ、株式会社パワープロジェクト、山陰水処理株式会社、UKオンラインギヴィングファンデーション、イソーリユーション株式会社、Bleaf株式会社、株式会社ブギ、サンパレード東京（一般社団法人OSAKAあかるクラブ）、株式会社イースト、ストライプジャパン株式会社、東京八王子ロータリークラブ、株式会社ボーダレス・ジャパン、株式会社ソリオ、一般社団法人H2Oサンタ、株式会社Take Action、ソーシャルアクションカンパニー株式会社、Hair dresser's José、株式会社IW TOZ ANTHONNYファン有志、C-United株式会社、株式会社クスリのサンロード、生活協同組合パルシステム、有限会社ジュニームーン、株式会社オムニバス、ソフトバンクつながる募金、日本バプテスト厚木教会、地球愛祭り東京実行委員会、地球愛祭り愛知実行委員会、立命館守山中学校・高等学校、工学院大学附属高等学校、駒沢学園女子高等学校、常滑市立常滑中学校、春日部女子高等学校インターアクト部、認定こども園厚木幼稚園

助成団体・助成金（順不同）

日本財団、東京都福祉保健財団 子供が輝く東京・応援事業助成金、デロイト トーマツ ウェルビーイング財団、年賀寄付金配分事業、連合・愛のキャンパ、大竹財団助成金、服部禮次郎アフリカ基金助成金、独立行政法人国立青少年教育振興機構、子どもゆめ基金、公益財団法人CBGMこども財団

会計報告



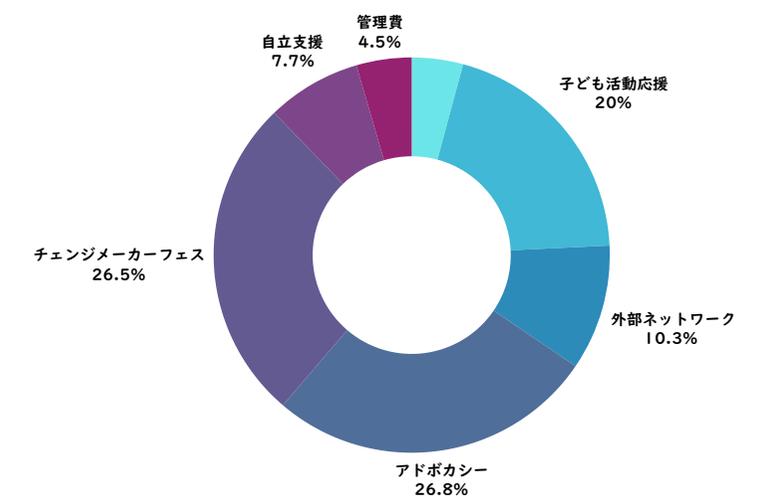
経常収入計
73,867,506円

経常収入内訳（単位：円）

| | |
|------|------------|
| 会費 | 210,000 |
| 寄付金 | 28,124,678 |
| 助成金 | 18,244,700 |
| 事業収益 | 27,796,595 |
| その他 | 1,491,533 |
| 計 | 73,867,506 |

事業費内訳（単位：円）

| | |
|-------------|------------|
| 子ども主体 | 3,007,436 |
| 子ども活動応援 | 14,395,355 |
| 外部ネットワーク | 7,370,156 |
| アドボカシー | 19,225,794 |
| チェンジメーカーフェス | 19,039,472 |
| 自立支援 | 5,533,196 |
| 管理費 | 3,237,823 |
| 計 | 71,809,232 |



事業費計
71,809,232円

| | |
|--------------|------------|
| 税引前当期正味財産増減額 | 2,058,274 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 70,000 |
| 前期繰越正味財産額 | 21,937,445 |
| 次期繰越正味財産額 | 23,925,719 |

子どもの権利に関する事業を中心に、収益事業と助成金が予算より膨らみ、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとして初めて7千万円を超える収入となりました。チェンジメーカーフェスなど大きい支出がある事業にも取り組みながらも、繰越額は増加で24年を終えることができました。

事業拡大と共に、人員不足が顕著となっております。雇用を増やし、子どもの権利が守られる社会を実現するために、マンスリーサポーターなど安定した寄付をいただけるよう引き続き温かいご支援の程宜しくお願い申し上げます。